

もえぎ

田村タマキ さん書

萌気園で豆撒きが行われました！



地蔵の湯



地蔵の湯



曼陀羅華



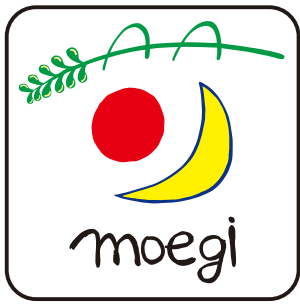
たもんの郷

皆さん元気に鬼を追い払っていました



こども園では男の子が福男になりお菓子を配りました！

医療崩壊	2
漫画 黒岩卓夫一代記	3
地域研修感想	4・5
祝100歳	6
選ばれる萌気会をめざして	7
萌気園老人ホーム「すみれ草」	8



医療崩壊

萌気園二日町診療所 院長 皆川 秀夫

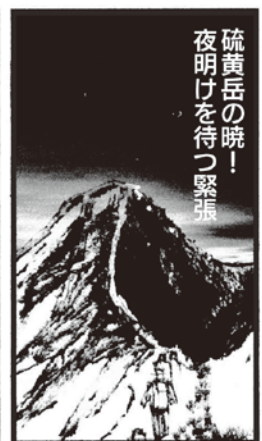
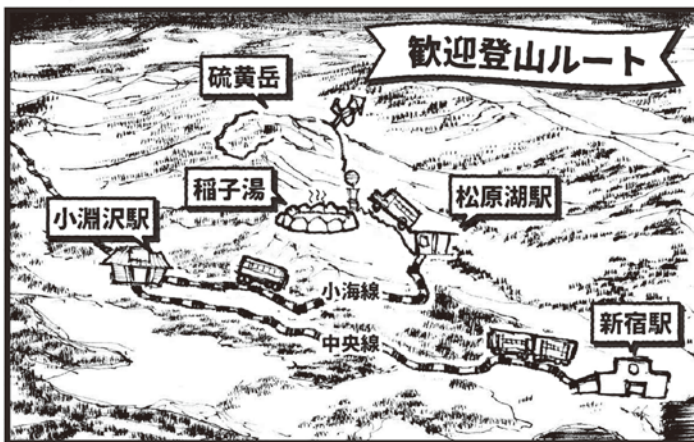


1月に入って東京の新型コロナ感染者数がピークの2400人から本日2月1日の398人までに徐々に減少している。政府も1月に出した緊急事態宣言をさらに1ヵ月延長する方向で調整中。第一波の流行時に比べて緩和された内容である。飲食店の時短、通勤者制限、イベントの入場制限、不要不急の外出制限等が主なものであるが学校の休校はない。政治家は会食のはしご、深夜までクラブで飲酒が止まらない。都内のターミナル駅も通勤のサラリーマンで溢れている。旅行、グルメの補助は停止となったがそれ以外はコロナ発生前の生活と変わらない。ただ皆、マスクをつけるようになったことと会食の頻度が減ったことが違いであろう。さすがに芸能人ばかりか政治家にも感染者が出ている。が最近では感染経路不明例が増加している。家庭内での二次感染も増えている。その他学校では寄宿舎、運動部の合宿所からクラスターが発生、校内に拡大というのが多いようだ。いずれも3密の中での共同生活で感染が広がりやすい。これらに比べてさらにクラスター発生が多いのが大病院や介護老人施設内での院内、施設内感染だ。コロナ感染者入院施設では防護装備で固めても脱着時、休憩時に汚染を受けることもある。さらに拡大して他の入院患者、利用者に拡大しやすい。これはいくら注意

しても防ぎ得ない。結局、大病院でも院内感染が広がると機能減となる。現在人工呼吸器やECMO（人工肺）等使用の重症者はピークを過ぎても高止まりの状態である。これら器機を使って治療にあたる専門の医師は少数である。又これら専門医師は循環器、呼吸器、救急疾患に従事していることが多い。コロナ重症者にこれら医師をとられると救急診療に穴が開く。すなわち前記機器を使って治療を要するような重症者を診る医者も、集中治療室もコロナ患者にとられている。既に1都4県では救急車のたらい回しが起こっている。特に高齢の介護施設入所者がコロナに感染するとトリアージの対象となる。回復見込みのない者は高度医療の対象とならない。この現実に対処できないのが現在の医療界の姿である。



第5話 登山部 歓迎登山



昭和39年東京オリンピックを契機として、日本の経済高成長、自動車が大衆化する直前だった。この頃の登山は若者の憧れであり、ファッションでもあった。ピッケルを持って登るのが夢だった。上高地の洞沢は TENT 村で有名になった。

卓夫は故郷の山へ行きたくて山岳部に。今回は北アルプスを遙か眺めることが目的だった。日比谷高校は全国から都内に寄留して入学したので、当然進学トップ高になっていた。

地域研修感想



東京慈恵会医科大学附属病院 初期研修医2年目 池田 拓海

2021年1月5日～1月29日の間、萌気会で地域研修をさせていただきました。地域研修ではcommon diseaseや外来の経験ができると楽しみでしたが、2020年からのCOVID-19の影響で研修することができるか不安であったため、1月4日のSARS-CoV-2 PCR検査が無事陰性で浦佐に行けるようになりました。うれしく感じたことを覚えています。

まず、浦佐駅について驚いたのは雪の多さでした。人に言われていたり、テレビでみたりしたことはありましたが、実際に目の当たりにすると段違いに多く、また自然に信号機から雪が落ちたりするのを見ると、もし下に人が歩いていたらどんなことになっていたのだろうと思い、恐怖心が芽生え始めていました。しかし、長靴を貸していただき、なんとか通勤はできる態勢がとれました。

もともと「浦佐診療所での研修」と聞き、1か月間外来見学・診療をするのかと思っていました。しかしそんなことはなく、浦佐駅についた翌日にはウォーキングマシンや筋トレマシンで汗を流していました。萌気会は「会」とあるように様々な施設がありました。リハビリセンター、訪問看護、デイケア、デイサービス、グループホーム、ケアハウス、障害福祉サービス、小規模多機能型居宅介護、訪問リハビリ、そしてこども園です。診療所では外来だけでなく、往診もあります。子どもから老人、障害者という全人類が安心して暮らすことができる環境です。医療・福祉・予防という3本柱が大事であり、それに則って、黒岩卓夫先生が必要と思われた施設を診療所から広げていったというお話を聞き、現在の在宅サービスをご自身で考え形作られたという創造力にとっても驚きました。東京慈恵会医科大学では毎年学外実習があります。1年生での福祉体験実習（障害者をサポートする施設）、2年生での重症心身障害児療育体験実習と地域子育て支援体験実習、3年生での在宅ケア実習（訪問看護・リハビリ）と高齢者医療体験実習、4年生での家庭医実習がそれに当たります。しかし、臨床実習が始まるとなかなか在宅サービス施設に行く機会はありません。そのような中で、初期研修が終わる時期にこれらの施設に行き、医師以外の医療職の方とお話をし、医師に求められることを聞くことができたことはとても貴重な経験であり、また、今後の大事な財産となったと思います。

在宅での医療に一貫していたのは患者さん・利用者さんの「生活」を診るということです。病名よりも何に苦しんでいるか、何を欲しているか、そしてどうしたら生活を送ることができるか、ということに重きをおいているような印象を受けました。それは医師による治療はもちろん、看護ケアやリハビリも含まれます。病院での生活とご自宅での生活は違うとはわかっているものの、それを実感しました。また、「家族」、「在宅での看取り」という意味も考えさせられました。



リハビリセンター浦佐にて

往診は初めての経験でした。そこでは患者さんの生活を家の中から改めて見るができます。邪魔にならないように、しかし、よりよい生活を送れるように介入をすることができます。また、実際の家にお邪魔することで、想像でしかなかったものが現実としてみることで、家庭環境をよりよく知ることができます。患者さんだけでなく、ご家族のサポートもすることができます。そのため、診療所の先生方は患者さんのご家族、生活をよくご存じであり、また患者さんも親しそうに話すことができるのだと思いました。ときに世間話をしたり、ときにお互いの家族のことを話したりと、私自身にとって理想とする医師・患者関係であり、うらやましくも思いながら外来・往診を見ておりました。

最後に、お礼をさせていただきたく思います。リハビリセンター浦佐・たもんの郷・もえぎ元気アップの方々、実際の利用者さんと同じ経験をし、体を動かし、またお話を聞いたり送迎をさせていただき、退院後の生活を垣間見ることができました。浦佐のいいお店も教えていただき、本当においしかったです。ゆいまーる・りらいふの方々、在宅での看護・リハビリの大変さを目の当たりにし、特にその場にあるも

のでなんとかするという臨機応変の必要性を感じました。退院後の生活を整えることの大切さ・難しさ、「生活を診る」ということを肝に命じます。桐鈴会の方々、黒岩秩子さん、ケアハウスやグループホームでの生活を見ることができただけでなく、職員の方が病院と話し、自施設でのお看取りをするということは利用者さんと職員の方の信頼関係に基づくものだと思います。つきたてのお餅のおいしさもはじめて知り



こども園で“どんど焼き”

ました。あやめ診療所の方々、柿原先生、鈴木さん、児童心理と学校・家庭環境の思惑の交錯を解きほぐす難しさ、聞きたいこととその子の話したいことが異なる時のもどかしさを知りました。こども園の方々、坂西さん、登園している子達、そら組の方々、一緒に はじめてのどんど焼きを経験したり、また久しぶりにサッカーや氷鬼をし、走り回ることができました。とてもやさしくて相手の立場になって考えることができる子達だと思い、私自身もそうならなくてはいけないと改めて思いました。診療所の看護師さん・技師さん・事務の方々、気さくに話しかけてくださり、また外来でも至らない点をサポートしてくださり、なんとか診療をする

ことができました。はじめて親元を離れて1か月間過ごしましたが、体調を崩すことがなかったのも、生活や体調をいつも気遣ってくださったからだと思っております。笠原さん、希望に合わせて研修日程を組んでくださったため、こんなにも在宅の仕組みを体感できたのだと思います。大雪の際には何度もホテルまで送り迎えをしてくださり、怪我などすることなく過ごすことができました。そして池田先生、寺田先生、皆川先生、高橋先生、黒岩巖志先生、黒岩卓夫先生、何度も外来見学・診療、内視鏡見学をさせていただき、そのたびに診療に対する心構えからcommon diseaseへの対応、漢方薬の使い方など多くのことを学びました。中学校での禁煙教室もそうそう経験できないものでした。先生方のような、患者さんとともにその生活を整えることができるような医師になりたいと思います。その他にも多くの方々にお世話になった1か月でした。ここでの1か月で思ったこと、感じたこと、考えたことを忘れず、今後の医師人生において日々の診療をしていこうと思います。八海山や長岡花火など、浦佐で経験していないこともありますので、世の中が落ち着いたらまたお邪魔させていただければと思います。本当にありがとうございました。



リハビリセンター浦佐で送迎と一緒に

書籍紹介 人新生の資本論

人新生（ひとしんせい）とは、資本主義が生み出した人工物が、世界を覆ってしまった時代を指すのだという。

まずは、東京都世田谷区で会社が経営していた保育園で、会社が閉園を決めた。園に預けていた保護者達も職員たちも困ってしまったが、労働組合「介護・保育ユニオン」に相談しながら、職員たちは自主営業を始めてしまった。

世界に目をやると、スペインのバルセロナで反貧困運動のなかから出来てきた政党「バルサローナ・アン・クムー」（英語で言うと、バルセロナ・イン・コモン）から、2015年の地方選で、女性市長アダ・クラウが誕生する。市庁舎が市民に開放され、2020年1月には「気候非常事態宣言」が300人もの起草委員会で練り上げられた。「フィアレス・シティー」（恐れを知らない都市）第一号がバルセロナに誕生し、それが世界中に広がってアジア、アフリカ、南米など



に77個にも広がっている。都市の中での相互扶助などだけでなく都市間の協力関係をも築き、世界的な運動としても広がりを見せている。

マルクスのレンズを通して現在の世界を読み解く、というのが著者：斎藤幸平（1987年生まれ）の意図するところ。

最後に著者は、こう呼びかけている。『3.5%の人が非暴力的な方法で変革を試みれば、世のなかは大きく変わる、という政治学者の研究成果がある。1%の富裕層・エリート層が、好き勝手にルールを変えて、自分たちに都合のいい社会を形成してしまった。99%の人が無関心でいる間に。そこで、これから、それを変えようと、行動を起こそうではないか』と。

この本の前半は様々な改革運動があったが、それらの一つ一つを分析して批判しつくすことに費やしている。例えば、国連が定めたSDGsなどでは変革は無理、と言っている。そして最後に来るべき社会の姿を示してくれる。希望の光が差ししてきた感じがしている。マルクスの資本論をその後半を深く読みこむと、現在の人類社会（地球）を甦らすイメージが産まれる。その裏付けを論理的に展開した魅力ある本だ。

祝 100歳

地蔵の湯

地蔵の湯では毎月、誕生月の利用者さんのお祝いをしています。1月は百寿（100歳）を迎えられた方が3名いらっしゃったので、誕生月の方のお祝いと一緒にささやかではありますが百寿のお祝いをさせていただきました。

いつもにこにこ笑顔で体調を崩さず、地蔵の湯をご利用いただいている「岡村トシ様」「駒形ナヲ様」「湯本井ト様」百寿おめでとうございます。

還暦から40年もたつ3名の方の100年という歴史の偉大さに敬服致しますとともにこれからの人生が健やかで輝かしいものとなりますよう、地蔵の湯職員一同願っております。

私達のお手本として明るく生き生きと過ごされ、地蔵の湯の温泉につかっていただき、是非とも世界最高齢を目指していただきたいと思います。

萌気園大和通所介護「地蔵の湯」 職員一同





選ばれる 萌気会をめざして

事務局 介護担当 高橋 由香

2021年4月からの介護報酬改定は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて「安定的な対応力」と「介護現場の革新」が今後の事業所運営のポイントになる見通しです。

介護部門では、ご利用されている方と働くスタッフの満足度向上を目標にあらたな取り組みとして、丁寧な説明と対話で革新への対応力強化を実現するとともに、医療・介護事業だけではなく雇用に関しても地域で選ばれる企業を目指します。

○研修・教育体制の確立

1. チームケア 介護技術の向上・知識を深める

ご利用者が希望される生活を実現するため、具体的な課題を多職種連携で支えます。

まずは、法人内の専門職の連携について再検証し萌気独自のサービスとは何かをチームで考え取り組みます。

2. 資格取得支援

スタッフ個人のキャリア形成を支援します。職責や職務内容と遂行能力に応じた処遇改善の見直しをします。

○ICT(情報通信機器)化の推進

1. 事業効率の向上

介護請求・記録ソフトとの連動で業務負担の軽減を図ります。

2. 新年度介護報酬改定に伴う新設加算への対応

厚生労働省(科学的介護データベース)「CHASE」との連携によるPDCAサイクルの検証でサービスの質の向上を図ります。

○ノーリフトケアの提案

ノーリフトケアとは、介護現場において人力のみで、力任せの移乗介助を行わないこと。リフトなどの福祉用具を積極的に活用した腰痛予防対策です。介護職に就いてから体に痛み・違和感を感じたことがある方は、7割を超えているとのデータがあります。(厚生労働省「職場における腰痛予防対策指針」より)

萌気会でも腰痛により離職される方や制限のある働き方をされている方がいます。日常生活にまで影響することを考えると、このような取り組みも検討すべきです。

あらたな取り組みへのチャレンジには保守的な考えから「時間と労力の無駄」と考える方もおられると思いますが、数年後に訪れる「働きやすい職場環境」のために一緒に考えていきましょう。

最後に、4月からの介護報酬改定により毎月のご利用額の増減が見込まれます。詳しいご案内は、事業所よりお知らせいたします。

萌気園老人ホーム「すみれ草」

昨年9月より入居された山田ナヲさん。入居当初より、他の利用者様と楽しく過ごされており、手作業などを積極的に行って下さっております。最近では花札やレクリエーションなどに力を入れていらっしゃいます。



利用者 山田 ナヲさん

看護小規模多機能居宅介護かんたき萌気コム・ソフィ&ナース

去年からコロナウイルスが流行している中、コム・ソフィ&ナースでは利用者さんやご家族の方にもご理解とご協力をいただきながら積極的に感染症対策に取り組み、無事に新しい年を迎えることが出来ました。

今年は丑年ということで、お正月に職員手作りの牛のパネルに利用者さんの顔を入れての写真撮影やことわざカルタ大会、お茶会を行いました。ことわざカルタの意味を考えたり、以前憶えたことわざを思い出しながら一所懸命に参加されていました。その後のお茶会では、カステラを召し上がっていただき、皆さん「おいしい」「今日はありがとう」と喜ばれ、たくさんの笑顔が見られていました。

さて、コム・ソフィ&ナースでは昨年12月で創立2周年を向かえるに当たり、ご家族へのアンケートを実施致しました。「この施設を利用して良かった」「職員のあたたかさが嬉しい」「介護と医療とが連携した環境で過ごせることで安心できる」といった感想や励ましのお言葉、ご意見、ご要望等たくさんの声をお寄せいただきました。これらの声を基にさらなる改善に取り組んで参ります。

本年も介護士と看護師が連携し、ご家族様のご理解とご協力を賜りながら皆様の充実した在宅生活のお役に立てるよう職員一同努めて参ります。

萌気園看護小規模多機能居宅介護

コム・ソフィ&ナース 磯部 洋介



令和3年度 さくり温泉 おひなさま

販売日 3月7日(日) 10:00~17:00まで

○特売入浴回数券 1シート6回券をお一人様10シートまで

通常2,300円を¥1,800で販売

○回数券予約も前金にて受付中

※コロナウイルス感染予防のためお茶会は中止とさせていただきます。

さくり温泉 ☎774-2802



編集後記

萌気園小規模多機能ホーム さくりの郷 上村 孝子

年末年始の大雪で、県内の多くの方が除雪だけがをされたり数名の方が亡くなられたり空き家の倒壊など大きな被害が広がりました。私たち南魚沼市も大雪で不便な毎日を過ごしています。

関東や関西では、コロナウイルスによる緊急事態宣言が出される深刻な状況が続いていますが、

この新聞が皆さまのお手元に届く頃には、春の足音が少しずつ聞こえ、状況が少しでも終息の方向に向かっていることを願っています。

まだまだ寒い日が続くと思いますが、体調管理に十分に気を付けてお過ごしいただきたいと思います。